



発行責任者: 歯学部長 宮崎 隆, 編集責任者: 広報委員長 中村 雅典
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>



平成26年度昭和大学卒業式・学位記伝達式が開催されました

歯学部長 宮崎 隆

平成26年度昭和大学卒業式が、3月17日(火)に五反田の「ゆうぽうとホール」において盛大にかつ厳粛に執り行われました。今年度の卒業生は、医学部(83回生)113名、歯学部(33回生)96名、薬学部(47回生)189名、保健医療学部(10回生)168名の合計566名で、会場は卒業生と大勢の父兄ならびに関係者の出席で埋め尽くされました。ここのところ天候のすぐれない日が続いていましたが、当日は春の陽気の晴天に恵まれ、着飾った卒業生で晴れやかな式典になりました。「ゆうぽうと」が解体されることになっており、この会場を使用しての最後の卒業式になりました。



式は午前10時に昭和大学管弦楽団の演奏(モーツァルト作曲 デイヴェルティメント K137 第2楽章)で厳かに開会しました。校歌斉唱に引き続き、各学部の総代に小出学長から学位記が授与され、歯学部総代を大山真司君が務めました。小出学長の告辞と小口理事長の祝辞に引き続き、各種表彰が執り行われました。歯学部から上條賞を大山真司君、同窓会賞を加藤梨友さん、福井梨恵さん、本多真梨子さんの3名、上條旗ヶ岡賞を陸上競技部の中谷貴恵さん、および同特別賞をスチューデントクリニッシャンプログラム優勝の道家 碧さん、そして最優秀スチューデント・インストラクター賞を谷口飛鳥さんが受賞しました。

在校生送辞に続き、卒業生を代表して歯学部の中井健人君が、6年間を振り返り心温まる答辞を述べました。昭和大学関係者全員で「昭和大学宣言」を高らかに唱和し、卒業の歌(旅立ちの日に)斉唱のあと、最後に恒例となった応援指導部による卒業生への力強いエールがあり、会場全体が熱気に包まれる中閉会しました。

引き続き午後1時から、会場を移し、旗の台校舎4号館500号室において、歯学部学位記伝達式が執り行われました。こちらにも大勢の父兄の参加があり、教室は満席になりました。宮崎歯学部長、榎病院長、飯島同窓会長の挨拶に引き続き、卒業生全員に宮崎歯学

部長から学位記が伝達されました。引き続き学生表彰、記念品贈呈および花束贈呈を行い、上條学生部長の挨拶で午後2時に閉式しました。

伝達式における学生表彰者は以下の通りです。

歯科医学生賞: 丸岩真由子, 森 友花, 山田めぐる, 学生部長賞: 岩島佑希, 早川大地, 渡部晃大, 教育委員長賞: 澤谷祐大, デンツプライ賞: 栗原由佳, 星野大地, 歯科補綴優秀賞: 寺島実華子, 榎原ゆりか(敬称略)

今年は病気休学者1名をのぞいて6年生全員が卒業することができました。課外活動においても、上條旗ヶ岡賞の候補者が多数推薦され、文武両道に成果をあげた学年であると思います。卒業生におかれては、卒業式の学長告辞や理事長祝辞でも触れられた「至誠一貫」の精神を生涯忘れることなく、そして、伝達式で配布された卒業までのロードマップとコンピテンシーを折りに触れては目を通し、本学の卒業生であることに誇りをもって今後各方面で活躍されることを祈念します。



至誠塾修了式が開催されました

歯学部長 宮崎 隆

平成26年度昭和大学至誠塾(5回生)修了式が、3月18日(水)午後6時から1号館5階カンファレンスルームで開催されました。至誠塾は学校法人昭和大学の発展のために平成21年に開塾されました。修業年限は2年間で、1年目は講義および討論形式で実施され、2年目はテーマ別研究および発表形式で実施されます。塾長である小口理事長から5回生14名に修了証が授与され、本学が日本一の医系総合大学になるために今後もチャレンジ精神をもって失敗を恐れず改革を継続していきましようとの力強い告示がありました。今回歯学部からは片岡 有先生(歯科理工学部門)と佐藤香織さん(歯科衛生室)が修了証を授与されました。修了生が一丸となって本学の発展のためにそれぞれの立場で貢献されますようお願い申し上げます。



謝恩会が行われました

口腔病理学部門 美島健二

昭和大学歯学部第33期生の謝恩会が、3月17日(火)に帝国ホテルにて開催されました。会



の内容としては、まず、開会の挨拶を謝恩会実行委員の杉之内君が行い、次いで、宮崎学部長、井上教育委員長、飯島歯学部同窓会長の挨拶が行われ、榎病院長の乾杯の音頭で祝宴に入りました。御父兄を交えて学生と教員の歓談する姿には、卒業という大きな目標を達成した喜びが溢れていました。その後、小口理事長、片桐名誉学長、小出学長など来賓の方々からの心温まる御祝辞を頂戴し、学生達は大きな節目にあたり気持ちを新たにしたいと思っております。また、今年度で退職される井上教授と塚崎准教授からのご挨拶がありました。お二人とも長年、学生教育に尽くされてこられた先生方で、本当にお疲れ様でした。これからは更なるご指導をお願いしたいと思います。恒例になったランキング発表では、「授業のわかりやすい先生」「熱意のある先生」など多くの先生方が表彰され盛り上がりを見せていました。会場での記念撮影のあと、閉会となりましたが、今年度は1人の留年生も出さずに卒業というとても喜ばしい謝恩会となりました。卒業生全員の進路に幸多からんことを祈っています。

D2 オリエンテーションが行われました

歯科薬理学講座 高見正道

今年は編入生2名を加えたD2学生111名を対象として、3月2日から2日間、オリエンテーションが旗の台校舎で行われました。初日は、宮崎学部長をはじめ、教育委員長、学生部長および学年主任・副主任が激励の言葉と注意事項等を述べた後、図書館や保健管理センターなどの利用説明がありました。次に、D3～D6の12名の先輩学生が勉強と部活との両立方法や、試験対策勉強のコツ、各自の体験談など、心のこもったアドバイスがD2学生に送りました。午後は、各班に分かれ、富士吉田での反省をふまえて2年生の生活をいかに充実させるかをテーマとして、今後の生活について討論・発表し、互いに発表内容を評価しあうことによって、優秀発表班が選ばれました。2日目は、電子ポートフォリオ等の説明の後、荏原警察署による交通安全・危険薬物・サイバー犯罪についての講習、消防署による三学部合同の防災訓練が実施されました。今回も学事部や教員、学生、そして警察・消防など、多くの関係者の皆様のご協力のおかげで無事にオリエンテーションを終えました。D2学生にとって、この旗の台での生活が人生の良き1ページになることを祈ります。



第6回臨床実習終了時 OSCE (iOSCA) を実施しました

iOSCA 実行委員長 歯周病学講座 山本松男

D5 iOSCA (integrated Objective Structured Clinical Assessment)を、3月12日(本試)、3月19日(再試)に歯科病院で実施しました。一年間の臨床実習で身につけた臨床的能力の到達度を、本学部のコンピテンシーに沿って評価しました。端的に表現すれば「患者さんを担当医として任せられるかどうか」を評価するといえます。スケーリングができる、印象が正確に採とれるという技術だけでは、必ずしも安心して任せられるとはいえません。今回は、チーム医療を実践する能力に焦点を当て、一人の患者様の症例を軸にコンパクトな課題を設定して一日実施としました。医療面接に始まり十分な情報を得て的確な治療計画を立案、患者の血圧を測定し、内科への紹介を経て、全身の状態に注意を払いつつ抜歯を行う直前までの一つのストーリーです。歯科医療の個々の知識や技術だけではなく、一般歯科に共通な要素を評価しました。安心安全な医療の実践的到達度を評価しました。

当日は遅刻者・欠席者もなく順調に行いました。成績は概ね良好でしたが、口腔内診査に不慣れであったり、患者さんへの説明が不明瞭であったりと、普段の各科ミニ OSCE 等では測れないことが見えてきました。合格ラインに満たない場合は、再指導を行った上で一週間後の再試評価試験を受験してもらいました。本年度は全員合格でした。本試当日は、玉川歯科医師会と川崎歯科医師会、日本歯科大学より5人の先生に外部評価者としてお越しいただき、学生評価に加えて課題内容や運営についても多くのコメントをいただきました。次年度への運営に反映したいと思います。また各科代表のドクターにお集まりいただき準備を進めてきましたので、各科で教えている内容の摺り合わせが進むことで本学の教育の体系化にも役立つものと期待をしております。ご協力をいただき、誠にありがとうございました。



教育セミナー『ITを活用した教育について』 が開催されました

歯学教育学部門 片岡竜太

歯学部では文科省大学間連携共同教育推進事業の支援を受けて5年間の「超高齢社会で活躍できる歯科医師の養成」プロジェクトに岩手医科大学と北海道医療大学と一緒に取り組んでいます。「全身と関連づけて口腔を診られる歯科医師」「基礎疾患を有する患者の歯科医療を安全に行える歯科医師」を養成するために、3年生(Step1)、4年生(Step2)、5年生(Step3)の3年間の必修教育プログラムを構築しました。3年生ではeラーニングを活用して、全身と口腔の関連についての基礎知識の修得、4年生ではeラーニングに加えてVP(仮想患者システム)も活用して、基礎知識を基盤としてコミュニケーション・臨床推論能力の養成を行っています。3大学で足並みを揃えて3年間取組を行い、一定の成果を得ましたが、本プログラムの更なる改善、飛躍を図るために、3月11日(水)16時から、旗の台校舎1号館7階講堂でITを活用した教育セミナーを行いました。連携校である岩手医科大学の城茂治教授をはじめとして、医学、薬学、富士吉田教育部、学事部から合わせて60名以上が参加し、活発な討議が行われました。

東京大学の大西弘高先生には本学兼任講師として、ご指導をいただいておりますが、今回は「医学教育におけるeラーニングの背景」というタイトルでeラーニングの概要とアクティブラーニングである「反転授業」「MOOC(大規模公開オンライン講座と講義配信サービス)」を紹介していただきました。eラーニング導入の失敗例も多く示していただき、学生が興味深いビデオでも3分以上の長さだと観なくなるなど実際に役立つ貴重な話をしていただきました。

香港大学のSusan Bridges先生には、香港大学のPBLやOSCAの見学の際にお世話になりましたが、今回は岐阜大学医学教育センター(MEDC)の今福先生に通訳を務めていただき、「ブレンド型eラーニング授業：香港大学での原理と実践」というタイトルで従来型の教室で行う講義(授業)とeラーニングをどのように組み合わせるかを高めるかという内容で、世界の先進校である香港大学の取組を説明していただきました。

東京医科大学のブルーヘルマンズ先生には、「東京医科大学におけるICT活用教育の三つの柱～LMS、eポートフォリオ、eコンテンツ」というタイトルで、2010年から導入したLMS(ラーニングマネジメントシステ

ム)を基軸としたeラーニング、eポートフォリオを活用した教育を紹介していただきました。ICTが得意でない学生や教員でもeラーニング教材が簡単に作成できるXerteの紹介もしていただき、今後本学でIT教育を進めて行く上で参考になる内容が多くありました。

教育セミナーの後、講演者を囲んで懇親会を開き、和やかな雰囲気の中様々な情報交換を行いました。大西先生とブルーヘルマンズ先生には文科省のIT連携の外部評価委員を引き受けていただきました。今後取組の更なる充実に向けて専心致します。

定年退職にあたって

小児成育歯科学講座 井上美津子

昭和52年に昭和大学に歯学部が創設されるとともに東京医科歯科大学から赴任し、早や38年が経過し、この度定年退職を迎えます。長いような短いような38年でしたが、歯科医師人生の大部分を昭和大学で、そして小児歯科で過ごしたことになります。長い間、多くの方々にお世話になり、本当にありがとうございました。



当初は、医局員の平均年齢が20歳代半ばという若いメンバーで、新たな診療体制づくりや歯学部学生の講義・実習の準備などに追われる毎日でしたが、楽しく仕事をさせていただきました。診療や教育の立ち上げが一段落してからは、保健所や障害児施設でのフィールド活動も積極的に開始し、多数の学会発表や論文作成などもさせていただきました。また医系総合大学としての特徴を活かして、昭和大学口唇裂口蓋裂診療班(SCPT)の一員として口唇口蓋裂児の診療・研究にあたるなど、小児科と協働して未熟児(低出生体重児)の歯科的特徴に関する研究をさせていただきました。時代の流れとともに診療・教育・研究の内容は少しずつ変化してまいりましたが、「子ども達のために、自分達ができることをしたい」という考えは、昭和大学小児歯科の根底に流れています。

平成18年には佐々龍二教授の後任として小児成育歯科学講座の教授を拝命しました。佐々教授と一緒に作ってきた教室ですので方針の大きな転換はありませんでしたが、母子口腔保健をもっと小児歯科に取り入れたいと思い、保健所を中心とした疫学調査や医学部附属病院におけるマタニティ歯科・赤ちゃん歯科の開設にも力を注いでまいりました。平成21年からは教育委員長として歯学部の教育改革にも携わってきましたが、関係する皆様の多大なるご協力のもと、どうか役目を果たすことができましたかと思えます。最後の卒業判定では、D6全員卒業という快挙(暴挙ともいわれました)を達成できましたが、国試の合格発表までははらはらどきどきでした。定年退職にあたり、昭和大学歯学部の更なる発展を心よりお祈り申し上げます。

上條賞(大学院)を受賞しました

歯科矯正学講座 丸山範子

今年度の上條賞(大学院)を受賞致しました。大学院4年間の研究成果がこのような形になり大変嬉しく思います。

研究テーマは『ナノインデンテーション法を応用した骨の物理学的特性』に取り組んできました。人口の高齢化に伴い骨の退行性疾患が増加し、歯科領域でも骨の劣化により治療が困難になる症例があります。このため、骨組織の力学的特性を評価することは重要な研究テーマです。とくに国際学会での発表では、国内外の様々な分野の先生方と交流する機会を頂きました。大学院生活を通して、貴重な経験が沢山でき、多くのことを学ぶことができました。ご指導頂きました榎宏太郎教授、宮崎隆教授、柴田陽先生、論文執筆を支えてくださった先生方、同期生、家族に心より感謝申し上げます。時に研究がうまく進まず意気消沈している私に激励下さり、4年間無我夢中で続けることができました。受賞と一緒に喜んで頂けたこと大変嬉しかったです。

これからも大学院時代に学んだ経験を生かし、より良い臨床・研究の実践に精進していきたいと思っております。本当にありがとうございました。



上條旗が岡賞を受賞しました

D6 陸上競技部 中谷貴恵

中学から始めた陸上競技を大学でも続けると決めてから、陸上をするには歯学部の中で昭和大学が良いと思い受験し、入学してからはや6年の月日がたったかと思うととても感慨深い思いでいっぱいです。部活動を通して個人の入賞だけでなく団体優勝なども経験でき、またかけがえのない仲間にも出会えました。6年間楽しいことだけでなく、辛いことや辞めたいと思うことも何度もありました。特に学業との両立はとても大変で、家族からは遠回しに辞めて学業に専念するように言われた時もありました。しかし、走ることが大好きで、学業と両立できれば納得してもらえんと思ひ文武両道を目指し、勉強にもより一層励んできましたので、このような賞をいただけてとても嬉しいです。

ここまで陸上競技を続けてこられたのは部活の仲間や先生方、友達また家族の理解があつてこそだと心から感謝しております。本当にありがとうございました。卒業後も学生生活で学んだことを糧に頑張っていきたいと思ひます。



井上美津子教授退職記念講演が行われました

学生会運営委員 歯科麻酔科学部門 飯島毅彦

歯学部教育委員長を務められた小児成育歯科学の井上美津子教授がこの3月一杯で御定年を迎えられるため、歯科病院において学生会講演会が開かれました。多くの教職員、教室のOBが詰めかけ、先生の長年にわたるお仕事に耳を傾けました。先生が昭和大学に赴任された30余年前の教室は平均年齢が20歳代という若々しく、活気にあふれたものであったことがお話の中に溢れておりました。小児歯科学は歯科治療をするだけではなく、小児成育を見守る診療科であり、名称も小児成育歯科学とかわり、健やかな成長を導いていく診療科としての使命を果たしてこられたということが良くわかりました。小児科と共同でさまざまな成長にかかわる問題に取り組み、特におしゃぶり、指しゃぶり、舌小帯短縮症といった小児特有の問題を研究課題として取り組んでこられました。今後、小児成育歯科学は先生が取り組んでこられたマイナス1歳からのマタニティ歯科からはじまり、口腔保健を通して成育を支えるものとしてさらに発展するものであるというビジョンもよくわかりました。拍手の中、後輩たちにわかりやすいメッセージを残してご講演が終わりました。



行事予定

広報委員長 中村雅典

- 4月1日(水): D3・D4・D6 オリエンテーション
D2・D3・D5・D6 健康診断
- 4月2日(木): D4 健康診断
- 4月4日(土): 大学院入学式
- 4月6日(月): 入学式

編集後記

歯科補綴学講座 安部友佳

厳しい寒さから一転、春風が快い季節となりました。年度始めも忙しい日々が続くと思われませんが、思わぬ花冷えに体調を崩されませんよう、皆様におかれましてはくれぐれもお気をつけ下さい。

末筆ながら、年度末のご多忙の折、皆様から多くの記事をご寄稿いただきましたこと、この場をお借りして深謝致します。